



平成24年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年12月6日

上場会社名 株式会社 ロック・フィールド
コード番号 2910 URL <http://www.rockfield.co.jp>

上場取引所 東 大

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩田 弘三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部部長 (氏名) 伊澤 修

TEL 078-435-2800

四半期報告書提出予定日 平成23年12月14日

配当支払開始予定日

平成24年1月18日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年4月期第2四半期の業績(平成23年5月1日～平成23年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第2四半期	24,084	5.6	1,029	15.0	1,057	15.6	586	25.6
23年4月期第2四半期	22,797	—	895	—	915	—	467	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第2四半期	44.18	—
23年4月期第2四半期	35.18	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年4月期第2四半期	28,136	21,937	78.0
23年4月期	28,096	21,643	77.0

(参考) 自己資本 24年4月期第2四半期 21,937百万円 23年4月期 21,643百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	—	18.00	—	22.00	40.00
24年4月期	—	18.00	—	—	—
24年4月期(予想)	—	—	—	32.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年4月期の業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,086	8.1	2,500	19.7	2,534	19.5	1,330	23.4	100.19

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年4月期2Q	13,394,374 株	23年4月期	13,394,374 株
② 期末自己株式数	24年4月期2Q	113,387 株	23年4月期	113,303 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年4月期2Q	13,281,042 株	23年4月期2Q	13,281,083 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

※ 当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後、当社ホームページに掲載する予定です。

・平成23年12月8日（木）・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間（平成23年5月1日～平成23年10月31日）における日本経済は、東日本大震災の影響により急激に落ち込んでいた景気が徐々に回復基調にあるものの、海外景気の減速とそれによる円高の長期化等、先行き不透明な状況が続きました。

食品業界におきましては、低迷する雇用情勢や所得環境が継続する中、消費者の節約志向並びにデフレ傾向が継続しており、当業界は激しい競争を繰り広げております。

このような環境下におきまして、当社は全社を挙げた業務改革やKAIZENの取り組みを継続して行い、生産性向上と経費コントロールによる収益体質の強化を図ってまいりました。また事業計画の3本柱である「サラダカンパニー事業戦略」「食育の実践と提案」「お客様満足100%の推進」の実現にも継続して取り組んでまいりました。

「サラダカンパニー事業戦略」として、当社商品の核となる野菜の鮮度により一層こだわり、生産ラインや店舗の販売ケースの温度管理方法のKAIZENを進め、パック入りサラダの品質強化に努めました。また「食育の実践と提案」として、子どもの職業体験テーマパークである「キッズニア東京」「キッズニア甲子園」で行われた食育フェアで当社主催セミナーを開催する等、食育活動の情報発信に努めました。また、震災の影響により心配された夏場の店舗営業時間短縮は回避でき、原材料欠品による商品不足等にも陥ることなく、「お客様満足100%の推進」のため安定した商品供給に努めました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における業績は、売上高は24,084百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益は1,029百万円（前年同期比15.0%増）、経常利益は1,057百万円（前年同期比15.6%増）、四半期純利益は586百万円（前年同期比25.6%増）となりました。

ブランド別の売上は以下のとおりであります。

業態		平成23年4月期 第2四半期		平成24年4月期 第2四半期		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
R F 1	サラダ	百万円 10,143	% 44.5	百万円 10,481	% 43.5	% 103.3
	フライ	3,217	14.1	3,301	13.7	102.6
	その他そうざい	4,405	19.3	3,835	15.9	87.1
	小計	17,766	77.9	17,618	73.1	99.2
神戸コロッケ		1,928	8.5	1,903	7.9	98.7
いとはん・三日坊主		1,287	5.6	1,578	6.6	122.6
R F 1 A s i a ・融合		399	1.8	327	1.4	81.9
ベジテリア		979	4.3	1,026	4.3	104.8
グリーングルメ		—	—	1,548	6.4	—
その他		435	1.9	81	0.3	18.8
合計		22,797	100.0	24,084	100.0	105.6

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「R F 1」ブランドにおきましては、更なる品質向上を目的に、引き続き旬の素材を活用した定番商品のブラッシュアップに取り組みました。サラダ品群では定番のシーザーサラダに健康的な付加価値をプラスした『緑黄色野菜のシーザーサラダ』がお客様のニーズに合致し、フライ品群では『北海道産の貝柱フライ』を中心に前年同期を上回りました。料理品群ではハンバーグ、ロールキャベツ等メインとなるメニューをサラダと買い合わせ提案し、客単価の向上に貢献しました。今後も新しい高付加価値なSOZAIの提案や食卓提案を通して、お客様の豊かな食事の時間のお手伝いをしてまいります。その結果、売上高は17,618百万円（前年同期比0.8%減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、コロッケ専門店としてさらに飛躍するべく、ブランド価値を高める取り組みを引き続き行いました。『じゃがいもコロッケ』『肉じゃがコロッケ』等のポテト系の定番コロッケを、原点に立ち返ってブラッシュアップを行ったほか、新しい提案として9月より『牛肉の赤ワイン煮コロッケ』『地中海風魚介のトマトクリームコロッケ』等、本格料理をコロッケに仕上げた「ソースコロッケ」を展開し、弊社の強みを生かしたワンランク上のコロッケ提案を行いました。また10月には、アイドルグループ「NMB48」とのコラボレー

ションコロッケ『オーマイガー！なつかしのポテトコロッケ』等を発売し、ブランドの認知度向上と若年層の顧客開拓に努めました。その結果、売上高は1,903百万円（前年同期比1.3%減）となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、旬の素材を使い、野菜の季節感・鮮度感を活かした「日本のさらだ」が好調に推移し、従来の定番商品に加え『湯葉と緑野菜の冷製あん』等、新たな定番につながる商品を定着させ、よりお客様に支持されるブランドへと進化させました。また『黒豆・黒ごま・ひじきの和風ミートローフ』等「日本のおかず」の強化を行い、「日本のさらだ」と同様、素材を活かしながら新しい価値を提案し、四季折々の味を取り入れた食卓提案につながる品揃えの構築を行ってまいりました。その結果、売上高は1,578百万円（前年同期比22.6%増）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、こだわりの野菜を使った定番ジュースに加え、通常の野菜ジュース以上に野菜量を充実させた濃厚ジュースが好調に推移しました。ただし8月後半の低気温や9月の2度の大型台風が一部野菜の原材料生産に影響し、調達に苦戦する場面もありました。一方旬のフルーツを使ったジュースにおいては、山梨・長野の桃を使った『国産の桃』、蓬莱柿（ほうらいし）という品種にこだわった『福岡のいちじく』等、春先の天候不順にも関わらず産地との長年の取り組みが奏功し、安定して原材料を入手することができました。さらに、本年5月よりスタートしました20代～30代の女性をターゲットにした「体の中から美しく」がコンセプトの「美人を育むジュースシリーズ」も新たな集客につながっています。その結果、売上高は1,026百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末と比べて40百万円増加し、28,136百万円となりました。これは、主に現金及び預金の増加78百万円、売掛金の増加79百万円、有形固定資産の増加44百万円、投資その他の資産の減少134百万円等によるものであります。

一方、負債合計は、前事業年度末と比べて253百万円減少し、6,199百万円となりました。これは、主に長期借入金（1年内返済予定長期借入金を含む）の返済184百万円等によるものであります。

純資産合計は、前事業年度末と比べて293百万円増加し、21,937百万円となりました。これは、主に四半期純利益586百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少292百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は78.0%、1株当たり純資産額は1,651円77銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べて41百万円減少し、7,404百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,279百万円（前年同期比382百万円の増加）となりました。これは、主に税引前四半期純利益1,041百万円、減価償却費803百万円、法人税等の支払額490百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、687百万円（前年同期比376百万円の増加）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出458百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、633百万円（前年同期比54百万円の増加）となりました。これは、主に長期借入金の約定返済184百万円、配当金の支払額292百万円等によるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

平成24年4月期の業績予想につきましては、平成23年9月6日に公表した数値から変更はございません。

ただし、事業環境の変化等による今後の業績推移に応じて、予想数値と重要な乖離が見込まれる場合には速やかに開示を行う方針であります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成23年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,645	7,724
売掛金	3,767	3,846
製品	64	56
仕掛品	74	86
原材料及び貯蔵品	204	149
その他	543	566
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,299	12,429
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	7,694	7,576
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,347	2,509
有形固定資産合計	12,989	13,034
無形固定資産	387	387
投資その他の資産		
その他	2,430	2,296
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	2,420	2,286
固定資産合計	15,796	15,707
資産合計	28,096	28,136
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,193	1,212
1年内返済予定の長期借入金	328	267
未払法人税等	538	473
賞与引当金	485	509
その他	2,760	2,681
流動負債合計	5,306	5,145
固定負債		
長期借入金	466	342
その他	679	711
固定負債合計	1,145	1,054
負債合計	6,452	6,199

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成23年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	10,436	10,731
自己株式	△208	△209
株主資本合計	21,632	21,927
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10	9
評価・換算差額等合計	10	9
純資産合計	21,643	21,937
負債純資産合計	28,096	28,136

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
売上高	22,797	24,084
売上原価	9,838	10,229
売上総利益	12,959	13,855
販売費及び一般管理費	12,063	12,825
営業利益	895	1,029
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	2	3
保険配当金	14	16
その他	8	16
営業外収益合計	28	38
営業外費用		
支払利息	7	4
障害者雇用納付金	—	4
その他	1	1
営業外費用合計	9	10
経常利益	915	1,057
特別損失		
固定資産除却損	27	16
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64	—
特別損失合計	91	16
税引前四半期純利益	823	1,041
法人税等	356	454
四半期純利益	467	586

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年5月1日 至 平成22年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	823	1,041
減価償却費	702	803
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△196	23
受取利息及び受取配当金	△5	△5
支払利息	7	4
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64	—
固定資産除却損	27	16
売上債権の増減額 (△は増加)	△263	△79
たな卸資産の増減額 (△は増加)	28	51
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2	18
その他	191	△106
小計	1,375	1,769
利息及び配当金の受取額	5	5
利息の支払額	△6	△4
法人税等の支払額	△477	△490
営業活動によるキャッシュ・フロー	897	1,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△20	△120
定期預金の払戻による収入	200	100
有形固定資産の取得による支出	△415	△458
有形固定資産の売却による収入	—	1
無形固定資産の取得による支出	△66	△56
長期前払費用の取得による支出	△93	△145
差入保証金の差入による支出	△7	△37
差入保証金の回収による収入	91	42
その他	0	△13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△310	△687
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△206	△184
リース債務の返済による支出	△80	△156
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	0	—
配当金の支払額	△291	△292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△578	△633
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7	△41
現金及び現金同等物の期首残高	6,854	7,445
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,862	7,404

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。